

機関番号：14301

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ~ 2010

課題番号：20520705

研究課題名 (和文) 西チベット、ラダックにおける現代化とシャマニズムの動態に関する研究

研究課題名 (英文) Modernization and Dynamism of Shamanism among the Ladakhi in Western Tibet

研究代表者

山田 孝子 (YAMADA TAKAKO)

京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授

研究者番号：20293839

研究成果の概要 (和文)：現代化とグローバル化は、世界の地域社会を急激な政治的、経済的変化に直面させてきたばかりではなく、伝統文化を動態的過程の渦中に放り込んできたといえる。現代化は宗教の世俗化をもたらすと一般に指摘されてきた中で、シャマニズムあるいはシャマニズムの実践はしばしば伝統社会において堅固に維持される、あるいは再活性化される現状が認められる。本研究は、インド国、ジャム・カシミール州のラダック地方を対象とする集中的実地調査により、インド独立後に進展した現代化とシャマニズムの実態を明らかにすると同時に、これらの資料の分析結果と 1980 年代に収集した調査資料との比較検討にもとづき、現代化のなかでのシャマニズムの動態的メカニズムを人類学的視点から解明したものである。

研究成果の概要 (英文)：Modernization and globalization not only has made local communities in the world face drastic political and economic changes, but also has thrown their traditional cultures into dynamic process of changes. Although it is generally suggested that modernization brings secularization of religions, shamanism or shamanistic practices are often observed to be firmly maintained or even revitalized in local communities. This study aimed to first shed light on modernization since the independence of India and the realities of shamanism today on the basis of intensive field research of the Ladakhi living in the mountainous border of Indian controlled Western Tibet. The second goal was to illuminate from an anthropological viewpoint the mechanism that ensured the dynamism of Ladakhi shamanism under modernization. This part of the study was based on a comparative analysis of current field data and those collected during the 1980s.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：ラダック、シャマニズム、文化人類学、現代化、伝統の連続性

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来、近代化は宗教の世俗化をもたら

すと、宗教社会学などにおいて指摘されてきた経緯がある。しかし、近年、北ユーラシア

各地の北方諸民族におけるシャマニズムの復興、あるいは東アジア、東南アジアなどにおける変容しながらも維持されるシャマニズムの実態が明らかになってきた。伝統社会におけるシャマニズムの動態は文化人類学においても関心を集めてきており、たとえば、アイヌの文化復興運動や、ポスト・ソビエトの東シベリアのサハ（ヤクート）におけるシャマニズム復興に関するこれまでの研究にみるように、儀礼の活性化やシャマニズム実践にみる現代性、エコロジー思想との連動、民族性のシンボルとしての再定置など、シャマニズムの動態に関する新たな知見が出されてきた。一方、本研究計画が対象とするラダック地方は、1974年の外国人への入域開放以来、チベット仏教文化の実証的研究という点から関心を集めてきた。とくにチベット仏教に深く帰依しながらシャマニズムを実践するというラダッキの実態は、シャマニズム研究におけるシャマニズムと普遍的宗教との関係という主要なテーマ上からも学術的関心を集めてきた経緯がある。

(2) ラダック研究については、国際ラダック研究協会が設立され、1993年以降、地域研究が進められてきており、現代化のなかでの観光化、政治的対立など、ラダック研究が蓄積されつつある。国内においても、チベット密教に焦点をあてた仏教学的研究、ラダック地方の人々の伝統的シャマニズム、シャマニズムとチベット仏教、伝統医学との連繋などについての研究が行われてきた。しかし、ラダック地方は現在、地域開発をとおした現代化が急速に進み、ラダッキの伝統的生活は激動の渦中にあるが、伝統文化の変容をシャマニズムの動態という視点から実証的に明らかにした学術的研究はこれまでにほとんどないという現状であった。

2. 研究の目的

(1) 本研究課題の目的は、インド国、ジャム・カシミール州のラダック地方を対象とする集中的実地調査により、インド独立後に進展した現代化の実態と、その過程においてシャマニズムが人々に頼られ続けるというシャマニズム存続の背景を明らかにすることにある。

(2) 第2に、実地調査で収集した資料の分析結果と、1980年代のラダック調査で収集したシャマニズムに関する調査資料との比較検討にもとづき、現代化のなかでのシャマニズムの動態的メカニズムを人類学的視点から総合的に解明することにある。

3. 研究の方法

(1) 本研究課題の目的にそって、以下の研

究方法にもとづきフィールド調査を実施した。フィールド調査は、主に集中調査からなり、調査研究方法は参与観察、聞き取り、デジタルカメラ、ビデオカメラ、MDレコーダーなどの機器によるフィールドデータの収集と記録、文献情報資料の収集、データベース作成、情報データの解析からなる。

(2) なお、ラダッキを対象とするインタビュー調査は、相手の同意と協力のもとに実施し、調査結果の公表にあたっては人権、プライバシーおよび利益の保護に十分配慮した。

4. 研究成果

(1) 現代化をめぐる問題として、以下の点が明らかになった。まず、インド独立後の政府による地域開発は、この地域のインフラ整備と観光地化をもたらし、とくに1980年代以降ラダック社会の現代化を進めてきたといえるが、2000年以降、観光産業の肥大化がますます進んでいることである。その結果、従来の自給自足経済から観光産業に依存した貨幣・商品経済への移行が一層進展し、現金収入源の確保と子弟の教育水準の向上は、ラダッキにとって大きな生活目標となり、レー地域には私立学校が数多く開校するまでとなっている。その一方で、レー近郊と遠くの村々との経済的、生活水準上の格差が拡大してきたことが明らかになった。また、インド独立後のジャム・カシミール州政府によるムスリム偏重政策は仏教徒ラダッキとムスリムとの宗教的対立を生み出すことになり、一時は暴力的対立へと激化した歴史をもつ。しかし、1989年の大統領令によるラダックにおける指定部族の地位の確立、1995年における「ラダック自治山麓開発協議会」法の制定以降、積極的優遇措置と地方自治の確保により宗教的対立の解消が目指され、現在、平和的宗教的共存が積極的に図られていることである。さらに、伝統を守りながらの持続可能な発展と都会的・商業的なさらなる発展との間で、開発をめぐる意見の対立が生み出されるというように、ラダック社会の現代化は、伝統と刷新とが拮抗しながらも、伝統の維持に根ざしながら進展していることが明らかとなった。

(2) シャマニズムの存続という点では、以下の点が明らかになった。まず、シャマンの予備軍が再生産され続けており、年輩のシャマンのもとには、憑霊の病いの患者がシャマンへの道を望んで修業のために訪れていたばかりではなく、シャマンの実践は、ますます日常的・職業的となり、シャマンの治療儀礼には日々数多くの依頼者が訪れる現状があった。また、シャマンは、衣装、でんでんタイコなどの装備・道具一式を鞆に詰め、民

族性を異にする人々の村にまで依頼に応じて出張するようになっていた。一方、シャマンのもとを訪れる、仏教徒との葛藤を抱えたイスラーム教徒も少なくなく、仏教徒とイスラーム教徒との平和的共存のスローガンに隠れた、両者の潜在的葛藤の解消役としてシャマンが必要とされるという、新たな状況が生み出されていた。村のシャマンの実践は、形式を少しずつ変えながらも、新たな現代的役割を担いながら堅固に存続していることが明らかになった。第2に、ラダック地方の僧院の祭りが観光資源化される傾向にある中で、ラー（神）に憑依された村人が登場するストック僧院のグル・ツェチュ祭やティクセ僧院のグストル祭、ラーに憑依された僧侶が登場するマソー僧院のナグラン祭などの僧院の祭りは、ラダッキの信仰の表出の場の一つとなっており、可視化されるラーのシャマニズム的顕現は、今日においても人々に宗教性を現出させる力となっていることが明らかになった。その反面、僧院の祭りは、現代化による村コミュニティの変容の中で、その維持をめぐるさまざまな葛藤を抱えながら維持されている現状があり、僧院は村人の信仰心を再活性化させる装置を工夫しながら祭りの維持を図っていることが明らかになった。第3に、ローサル（正月）の行事が示すように、ラダックの人々の間には伝統的な神々に対するアニミズム的信仰も深く、チベット仏教への帰依という汎チベットの宗教伝統の実践と、土着のシャマニズムの実践が共存しながらラダックの宗教伝統が維持されていることが明らかになった。

(3) 現代化とシャマニズムの動態という点から、宗教伝統の連続性には次のような傾向が認められることが明らかとなった。まず、現代化の中で村落における伝統的な社会関係の維持が難しくなっており、その結果、伝統的祭礼の維持をめぐる村落内の対立さえ引き起こされることである。その一方で、現代化の中で発生する対立と困難は、シャマンの力を頼らざるを得ない状況をも生み出し、シャマンのもとを訪れる村人の数には減少がみられないだけでなく、シャマンは、宗教、民族性をはじめとするさまざまな境界を越える仲介者としての役割を果たすようになっていく。第2に、ラダックにおいてはチベット仏教とシャマニズムの伝統が密接に連繫する形で共存してきたといえるのであるが、今日、シャマンの実践において、形式的な側面や依頼者への回答におけるチベット仏教的規範化という、いわば汎チベット化がさらに進むようになっていくことである。このことは、ダラムサラにおけるチベット亡命政府成立後のラダックとダライ・ラマ政府との緊密な関係によるものでもあるが、メデ

ィアなどのコミュニケーションの発達という現代化による恩恵によって両者の交流が一層促進されてきたといえる。このように、現代化は、シャマニズムの伝統に、ラダックというより限定された領域に根ざす地域主義の維持と同時に汎チベット主義を生み出してきたということがいえる。最後に、僧院の祭りの求心力が示すように、憑依による神々の力の誇示、つまりラーの可視化は、今日においてもラダック・シャマニズムの伝統を支えるのみならず、チベット仏教への帰依をも支える原動力であることが明らかになった。以上、ラダックにおける現代化のなかでの伝統の連続性のメカニズムが明らかになった。

(4) 以上の成果は、国際ワークショップ「宗教間遭遇のメカニズム」(2010年6月17-19日、ダーラーナ大学、スウェーデン)、国際宗教学・宗教史会議第20回世界会議(2010年8月15-23日、トロント大学)において発表され、研究成果の国際発信が積極的に図られてきた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ① 山田孝子、可視化されるラー（神）の力と宗教性の現出—ラダックにおける僧院の祭りから、北方学会報、査読有、15、2011、3-14。
- ② Yamada, Takako, Shamanic Power and the Continuity of Buddhist Tradition in Ladakh, Northern Studies Association Bulletin, 査読有, 15, 2011, 2-3.
- ③ Yamada, Takako, Continuity and Symbiosis of Traditional Cultures: From animism to a philosophy of ecology. Yamada, Takako & Takashi Irimoto (eds.), Continuity, Symbiosis, and the Mind in Traditional Cultures of Modern Societies, Sapporo: Hokkaido University Press, 査読有, 2011, 143-151.
- ④ Yamada, Takako, Anthropology of Continuity and Symbiosis of Traditional Cultures. Yamada, Takako & Takashi Irimoto (eds.), Continuity, Symbiosis, and the Mind in Traditional Cultures of Modern Societies, Sapporo: Hokkaido University Press, 査読有, 2011, 261-271.
- ⑤ Yamada, Takako, A Reappraisal of Eurasian Shamanism: Continuity or Discontinuity of the Concept of Spiritual Beings. Westerdahl, Christer

(ed.), *A Circumpolar Re-Appraisal: The Legacy of Gutorm Gjessing (1906-1979)*, BAR International Series, Oxford: Archaeopress, 査読有, 2154, 2010, 363-373.

- ⑥ 山田孝子、「移動」が生み出す地域主義—今日のチベット社会にみるマイクロ・リージョナリズムと汎チベット主義、地域研究、査読有、10巻1号、2010、33-51。
- ⑦ Yamada, Takako, Nature as the Quintessence of Sakha Shamanism Revived. *Quaderni di Etnologia e Archeologia del Sacro*, 査読有, 12, 2009, 13-26.
- ⑧ Yamada, Takako, Religion and Nature in Human Societies Today. *Quaderni di Etnologia e Archeologia del Sacro*, 査読有, 12, 2009, 9-12.
- ⑩ Yamada, Takako, A Reappraisal of the Continuation of Shamanism in Modern Societies Based on Case Studies among the Ladakhi and the Sakha. *Simonkay, Zsuzsanna and Mihály Hoppál (eds.), Shamans Unbound*, Budapest: Akademiai Kiado, 査読有, 2008, 69-80.

[学会発表] (計 4 件)

- ① Yamada, Takako, Shamanic Power and the Continuity of the Buddhist Tradition in Ladakh. The XXth World Congress for the International Association for the History of Religions (IAHR), 15-23 August, 2010, Toronto, Canada: University of Toronto.
- ② Yamada, Takako, Ladakhi Shaman as an Agent of Interacting with Religions and Ethnicities: Incorporation and De-culturalization.. The International Workshop on “Mechanics of Religious Encounter”, 17-19 June, 2010, Falun, Sweden: Dalarna University.
- ③ Yamada, Takako, Relationship between Humans and Nature: From Animism to a Philosophy of Ecology. Sapporo International Workshop: Continuity, Symbiosis, and the Mind in Traditional Cultures of Modern Societies, November 1-2, 2008, Faculty House Enreiso, Hokkaido University.
- ④ Yamada, Takako, A Reappraisal of Eurasian Shamanism. *A Circumpolar Re-Appraisal: The Legacy of Gutorm Gjessing (1906-1979)*. A cross-disciplinary symposium on the Arctic, Oct. 10-12, 2008, Trondheim, Norway: The NTNU.

[図書] (計 2 件)

- ① 山田孝子、京都大学学術出版会、ラダック—西チベットにおける病いと治療の民族誌、2009、421頁。
- ② Yamada, Takako & Takashi Irimoto (eds.), *Continuity, Symbiosis, and the Mind in Traditional Cultures of Modern Societies*, Hokkaido University Press, 2011, 280頁.

[産業財産権]
○出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

○取得状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 孝子 (YAMADA TAKAKO)
京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授
研究者番号 : 20293839

(2) 研究分担者 ()

研究者番号 :

(3) 連携研究者 ()

研究者番号 :